

## 第17回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和7年2月3日(月)午後3時30分～午後4時30分

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曾根、三浦

その他 市長、企画部長、企画課長、学校教育課主任指導主事

議事録作成者 企画課 内田

---

### 1. 議題

#### (1) 委員長報告

##### ○委員長

委員の皆様、事務局の皆様ありがとうございました。また、この会議開始前から率直な意見、アドバイスをいただきました教員はじめ関係者の皆様にも感謝申し上げます。

子どもたちが成長し、将来のより良い社会を担っていくことがこの会議の成果です。その一助になればと思い取り組んできました。

日本と地域の教育のあり方は変革が求められている中でこの会議が始まり、議論してきました。令和4年9月には市長に提言し、教育委員会でもその取組を進めています。その後、委員会としては進捗、成果の見守り、教育現場や教員との意見交換を行ってきました。教育現場で更なる理念浸透と取組にあたり各学校、各教員が主体的に進めていくことを期待します。

幸せになることは教えることではなく、自分で見つけ出すものです。提言書にもありますが、自分自身の判断基準で物事を見極め、納得した答えを導き出し、行動していく能力が必要です。これからの教育現場においても、まさに大切なことは教育に関わる一人ひとりが「幸せ」であり、様々な教育に関する課題を乗り越え、これからの時代をつくりあげていく子供たちの育成に取り組んでいくことです。そこには過去に縛られず、同調圧力に屈せず、一人ひとりの価値観での教育を取り入れつつも、「幸せになること」を判断基準として、不易流行の教育が必要です。変えるべきことは変え、より良い教育を取り組む絶好のチャンスです。

この会議をきっかけに、半田市から日本のすべての教育現場で幸せになるための教育が進み、社会の発展に寄与されることを期待しています。

#### (2) 市長謝辞

##### ○市長

約3年間、自分事のようにとらえ熱心にご議論していただきありがとうございました。教育について市長が委員会を設置し、市民目線で教育委員会と協議する今回の取組は、半田市で初めてです。近隣市町でも事例は少ないと思います。試行錯誤で進めてきましたので行政としても不慣れな点もありましたが皆様のご理解、教育委員会のご協力をいただきながら進められました。

すでに動き出していますが、今後は市長として強い想いをもって、教育委員会とともに提言を推進します。実は委員会の開始時は、私にも自信のない点がありましたが、皆様のご意見を伺い自信を持って進めていけられると感じています。ただし、一人ひとりが考えて進めていくことですのでこれからも試行錯誤が続きます。委員会は今年度をもって終了しますが、委員の皆様は引き続き興味をもって、見守っていただき、感じるがありましたら教えてください。ご理解、ご協力をいただきながら、しっかり進めてまいります。

### (3) 委員所感

#### ○委員

市長がこれからしっかり取り組むとの言葉がありましたので、何も言うことはありません。開始当初から、この会議では「考える」のではなく、「実現」することにこだわり、議論してきました。今後、市長をはじめ、教育委員会で実現に向け取り組んでください。ありがとうございました。

#### ○委員

ありがとうございました。委嘱された当時、3年間も会議をすると思いましたが、あっという間の3年間でした。私は力になれた、達成したという実感はありません。

この会議を機に幸せ、学校などを改めて考える時間がありました。「幸せ」は誰でも知っている言葉ですが、簡単ではなく、重い言葉です。半田市が幸せになるための教育を実現する会議を立ち上げ、取り組むことを首長が率先して進めていることは全国的にあまりないと聞いています。このような貴重な機会のメンバーに加えていただき、ありがとうございます。

#### ○委員

自分の勉強にもなりました。今からの子どもたちを取り巻く今後の社会が心配です。急激な少子化に伴い、学校も変化や新たな対応が必要になることが予想できます。近隣市町では一学年25人いたのが、次年度以降は15人になることも起こってきています。

幸せになるための教育について、学校での主体的な取組が始まって2年、こ

れから子どもたちが自ら考え、学年が上がる度に深まっていけば良いと思います。行政が支援する取組も併せて実施していくことは良いことです。

半田市で働いた教員がこの取組を好意的にとらえ、市外に異動したとしてもその勤務先で実践することで広まっていくと良いと思います。会議に参加する前は自分の子に対して、こうすべき、こうあるべき、と決めつける傾向がありましたが、この会議に参加した結果、親としての考え方に変化がありました。初めは学校教育現場での取組かもしれませんが浸透していけば、親に伝わり広がっていくと、子どもへの接し方や話しかたが変わっていくと思います。このような日常のちょっとした変化によって、学校でも家庭でも「幸せ」について話ができて、考えられると良いと思います。

今後、理念が根付き、この取組をもっと発信して、市外や、家庭にも広がることを期待しています。

## ○委員

3年間ありがとうございました。期待されているような発言ができなかったことをお詫びします。この会議をきっかけに「幸せ」について良く考えました。こども達が幸せについて思い出す、考える瞬間が増えていくことが「幸せになるための教育の実現」に近づくと思います。教育は積み重ねです。一回のイベントだけではなく、連続性を持った取組が必要です。そのためには、学校に行くのが楽しい、親も元気な声が聞けてうれしい、学校の中だけではなく、日々の生活の中で幸せを感じれることが重要です。それが他者への感謝につながります。ハッピーウィークも大切な取組ですが、1年に1度だけではなく、1月に1回など、家庭でも、「幸せ」を話題にできると、効果が高まります。

教員はブラックと言われますが、それでも教員を目指す人はいます。しかし希望をもって勤務したけれど数年で退職してしまうことが社会問題となっています。わくわく感・ウキウキ感・子供の笑顔が見えるなどがあれば、辛いことがあっても教員のやる気につながります。一方、お金や時間をかけても、理解が得られない職場ではやるせないです。半田市は会議をきっかけに予算措置して環境整備をすすめています。他市町から見ると羨ましいと思います。行政が応援していることが伝われば、先生方にとって働き甲斐につながっていくと思います。市と教育委員会が手を携え仲良くやっていくことでスタート、進めていることも良いことですので引き続き大事にしてください。

## 2. 意見交換

<終了>